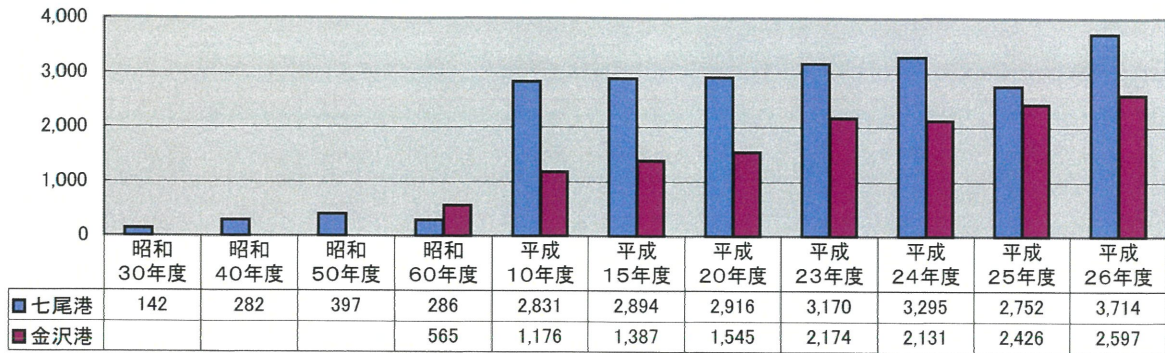
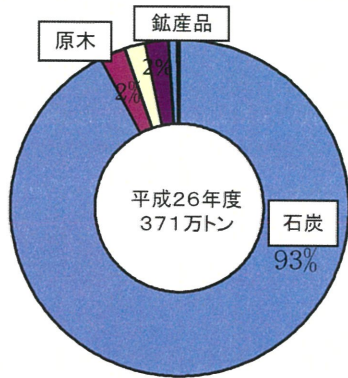


千トン

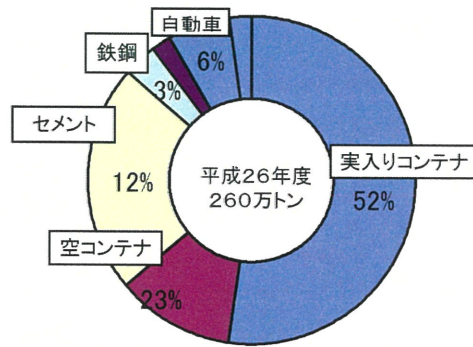
七尾港・金沢港の港湾運送取扱貨物の推移



七尾港の主な取扱貨物



金沢港の主な取扱貨物



6. 船舶関係

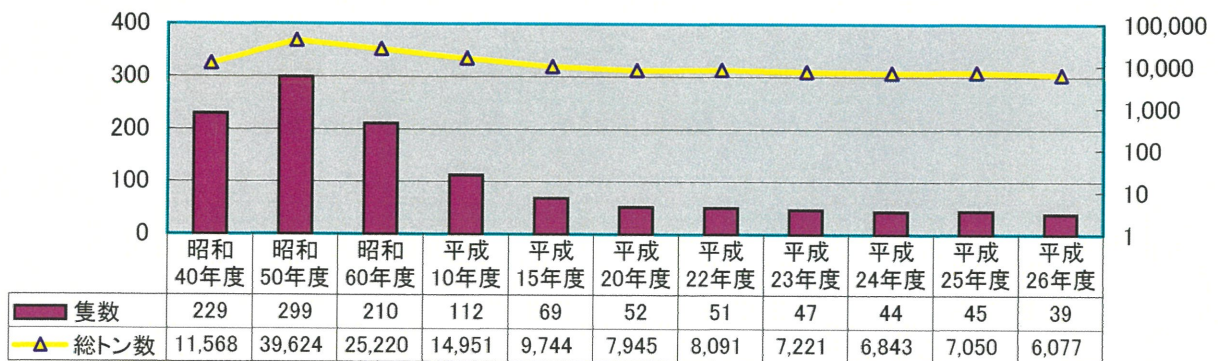
(1) 登録船舶数

管内の登録船舶数は、昭和50年の299隻をピークに減少を続け、平成27年3月末時点で39隻とピーク時の約1/7の登録数となっている。

隻

管内登録船舶数の推移

トン



(2) 造船業及び関連工業

石川県における船舶所有者のほとんどが漁業関係者であり、魚価の低迷等により新規の投資を避け、中古船を購入し改造して使用したり、新たに船舶を建造する場合は中大型漁船については中国・四国地方の造船所に依頼している。管内の造船業者は七尾市に5社、能登町に2社、金沢市に1社の計8社あり、地元の需要に応じ小型漁船の建造を行うとともに、富山湾沿岸を中心に近県の漁船や官庁船の修繕・整備を行っている。

これら造船業では、漁船の整備が冬季の休漁期に集中し夏期には仕事が少なくなり、また、漁船の減少傾向に対応した新たな需要を求め、マリーナの経営、FRP加工技術を生かし浄化槽の組み立て、港湾土木の請負等の多角経営を行っている。

また、造船業に関連する鉄工所や電装関係の業者も、七尾市、金沢市、輪島市、能登町で船舶のエンジンや電機部品の整備を行っているが、造船業と同様の状況にあり、長年培った技術を生かし自動車やその他工場の機関の整備を行っている。

(3) 船舶検査

平成26年度の船舶検査実績は、受検船舶45隻、臨検回数121回であった。

検査執行場所は、七尾市内、能登町(73km)、金沢市(70km)を中心として広範囲に分布している。特に、船体と機関とでは受検地が異なることが多く、検査業務の合理化、円滑化をより難しいものになっている。

検査時期は、いか釣り漁業の休漁期である1～5月と、沖合底引曳網・小型底曳網漁業の休漁期である7～8月に集中する傾向があり、降雪期と重なる1～2月は検査の準備工程が天候に左右されることが多く、検査執行のうえで大きな障害となっている。

船舶検査隻数及び臨検回数の推移

